

【日本発！モビリティ変革事例】産官学・モビリティコンソーシアム会議 無料オンライン・シンポジウム開催（7/28）

トヨタグループの自動車・モビリティ研究機関である株式会社現代文化研究所（本社：東京都千代田区）と、自動車総合メディア“レスポンス”を運営する株式会社イード（本社：東京都中野区）は、産官学の登壇者による「モビリティコンソーシアム会議」を開催いたします。

第1回目は、**電動化・情報化・知能化の進展を日本の取り組み事例として幅広い視点や立場から取り上げ、今後の事業戦略の方向性やトレンドを検討していきます。**

開催は7月28日（木）で、オンラインでの視聴は無料です。

また、当日のオンライン入退室は自由ですが、事前の参加申し込みが必要となります（前日に視聴情報をメールにてお送りいたします）。



プログラム

- <14:00-14:05> 開催にあたって
株式会社現代文化研究所 取締役 白木 節生 氏
- <14:05-14:35> 自動運転の実現に向けた取り組みについて
国土交通省 自動車局 自動運転戦略室長 多田 善隆 氏
- <14:40-15:10> モビリティソリューションズの挑戦(仮)
パナソニックホールディングス株式会社 モビリティソリューションズ担当 参与 村瀬 恭通 氏
- <15:15-15:45> Connected Car & Service1に対する日産の「いま」と「これから」
日産自動車株式会社 コネクティドカー&サービス技術開発本部
コネクティド技術開発&サービスオペレーション部 部長 兼
ソフトウェア&ユーザーエクスペリエンス開発部 部長 村松 寿郎 氏
- <15:50-16:20> 5Gの高度化と6Gによる次世代モビリティへのインパクト
株式会社NTTドコモ チーフ テクノロジー アーキテクト 中村 武宏 氏
- <16:25-16:55> モビリティにおけるサイバーセキュリティ強化と価値の向上
名古屋大学 大学院情報学研究科 附属組込みシステム研究センター 特任准教授 倉地 亮 氏
- <17:00-17:30> モータージャーナリストによるユーザビリティ向上への視点(仮)
モータージャーナリスト 清水 和夫 氏

お申し込みはこちらから⇒ <https://response.jp/article/2022/06/24/358976.html>

日時：2022年7月28日（木）14:00～17:30 / 申込締切日：7月26日（火）12:00

主催：株式会社現代文化研究所[※]、株式会社イード

協賛：中国智能网联汽车产业创新联盟

（CAICV；China Industry Innovation Alliance for the Intelligent and Connected Vehicles）

開催概要：Microsoft Teams LIVEを使用（アカウント無でも視聴可能）

開催参加費：無料（開催中の入退室自由）

* 現代文化研究所はトヨタ自動車株式会社が全額出資の調査・研究法人。1968年に日本の「自動車文化」の育成を目指して設立し、トヨタグループをはじめとした日本企業のグローバルな事業戦略や販売・マーケティング活動の支援を続けている。特に中国は30年以上にわたり、市場進出と現地ビジネスの拡大を支援。今回は、世界最大の市場となる中国のコネクティドカー産官学連盟組織「CAICV」の協賛も得て、モビリティ最前線のシンポジウム開催を実現することができた（今後は中国企業の最新事例の紹介も予定）。